

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	つくし園		公表日	令和8年 2月 16日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		・元保育所施設を使用しているため、十分な広さがある。	・適切だと感じるが、遊具等に使い方によっては窮屈になりうると感じる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		・人数や子どもの特性等に考慮し、職員配置を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		・ついたてや仕切りも使って空間を分けたり、必要最低限のもので導線を整えている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		・療育後は都度、部屋の整理整頓を徹底している。 ・湿度やCo2濃度等を計測している。	・園庭の草刈りが定期的に行っていけたらと思う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	1		・参画しているが、“必要なこと”と“したいこと”との区別が不十分。 ・意識しているが、完全ではない場面もあり、振り返りが不十分なものがある。 ・PDCAサイクルの視点に、よりぶれないようにする必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・職員会議で共有している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・月1回程度職員会議を開き、業務を見直せる機会を作っている。	・職員の意見は意図的に聞き出さないと出てこないこともある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7		・外部評価は受けていないが、発達支援センター運営会議に上がった意見は、業務改善に繋げている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・法人の全体研修を受けている。	・制度上の義務研修に時間が取られ、スキルアップのための研修の時間の確保が難しいところがある。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・児童発達支援管理責任者とクラス担任、サブの職員などが意見し、作成することを基本としている。 ・メイン、サブとも共有して検討されている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1		・基本的に計画に沿った支援が行われているが、細かな意図の共有や背景等が共有できていないこともある。 ・共有に課題あり、職員個々の知識・スキルの差があり、部分的になってしまう。 ・子どもの見方を適切に捉え、計画に反映していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	・フォーマルなアセスメントツールを基本としながら、並行通関の様子、日々の行動観察によるアセスメントも重要視している。	・標準化に至っていない。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		・打ち合わせや反省の時間に相談し、立案できる時もあれば、単独で立てる場合もある。 ・反省を踏まえた計画の作成を意識している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		・ねらいに沿った工夫を心掛けている。 ・クラスや子どもによっては、意図的に固定し継続して行うものもある。	・固定化しているつもりはないが、視点や活動の幅が広がらないと結果として固定化になってしまふことがある。 ・固定化はないが、ねらいの焦点が合いにくい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			・もう少し個に焦点が当たる計画や工夫があっても良いかもしれないと感じている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		・その日の活動について、ねらい・意識すべきこと、職員の立ち位置等を確認している。	・目標の共有が不十分などところがある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		・原則当日に行っている。 ・共有は出来ている。	・行っているが、エピソードの報告になりがちである。エピソードの共有のその先のアセスメントにブラッシュアップし、PDCAサイクルを作っていく必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			・検証、改善は弱いところがある。 ・深掘りしたアセスメント、“なぜ”をもっと追及する必要がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		・定期的なモニタリングを行っている場合とそうでない場合もあるかもしれない。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	・基本的には担任や児発管が連携に参加している。	
関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		・市の各相談や医療受診に同席し、連携している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		・個別支援計画の共有、電話でのやりとり、見学・面談等で情報共有と相互理解を図っている。 ・十分ではないが、連携の機会はある。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		・保幼小連絡会や学校公開日に参加している。	
	28	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7		・はぐくみ事業に参加し、アドバイスを受けている。 ・市の発達支援センターのアドバイスを参考しながら、療育計画等を作成している。 ・隣接するセンター職員にアドバイスを求められる環境がある。	
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	3	・基本的に並行通園されているため、そのような機会は作らずとも共有できている。 ・通園時間中の活動としてはない。	
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・送迎時に直接様子を伝えたり、写真入りの連絡ノートを活用する等、努力している。	・保護者によって共通理解の差はあると感じている。
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		・ペアトレはしていないが、情報発信事業を年3回実施している。 ・関係機関等の研修案内を配布している。	
	32	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		・契約時に一つずつ説明している。	

保護者への説明等	33	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	34	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	35	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		・それぞれの保護者の状況に応じて、面談の場を持っている。	・時間が取りにくい保護者への面談等の方法を検討していきたい。
	36	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		・家族の会のイベントのサポートを行っている。 ・保護者サロン年4回実施している。 ・兄弟をターゲットにしていないが、交流会では参加されていることも多い。	
	37	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	38	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		・園だよりにて発信している。	・内容に応じて今後はシステムを用いた情報発信していきたいと考えている。 ・情報の出し方は配慮が必要だと感じている。
	39	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	40	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	41	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5		・特にできていない。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	・定期的な研修を行っている。	・保護者への周知は足りていないのかもしれない。掲示物などでも知らせるようにしていく。
	43	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		・定期的な研修訓練を行っている。	
	44	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		・利用開始時に確認している。	
	45	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2	・医師の指示書までは求めていない。保護者への聞き取りで対応している。	
	46	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	47	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1		
	48	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		・必要時には振り返りや注意喚起も含めて行っている。	
	49	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		・法人、事業所ともに研修を行っている。 ・チェックリストをつけ、振り返りを行っている。	
	50	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	2	・今のところ身体拘束に至ったことはないが、適正化のための委員会に参加している。	